

2025 年留学報告書

中谷颯臣

私は 4/21~8/23 まで認定留学のためにオーストラリアのメルボルンに行った。メルボルンの街は整備されていて交通機関も便利ですし、多文化でいろんな国の人と出会える点がとても魅力的だ。

その多文化ということもあり、様々な国の飲食店が多いと感じた。

特に印象的だったのは、人々がとてもフレンドリーで親切なところだ。道や駅で迷ったときや買い物で困ったときなど、誰かに話しかけると必ずと言っていいほど丁寧に助けてくれた。僕のつたない英語でもみんな聞く耳を持ってくれたところだ。

また、自然と都市のバランスも良く、少し電車に乗るだけでビーチや公園なども行くことができる。

一方で、メルボルンは天気や気温の変化が激しく、1日の中で四季があると言われるほど気候が不安定だ。天気予報が晴れと言っているのにいきなり雨が降ることが多々あった。そして僕が行ったときは朝は寒くても昼は比較的暖かくなることがあるので、服装の調節がとても難しかった。

総合的に見ると、メルボルンは安心して暮らせる環境が整っており、勉強にも生活にも非常に適した都市だと感じた。また機会があれば、ぜひ長期でもう一度住んでみたいと思える場所だ。学校は RMIT UP (RMIT university pathways) というところに通った。市内の中心地にあり、学校の最寄り駅から徒歩約 5 分程度ととても立地が良い。この学校には留学生のための English academic や大学に進学するための Foundation Studies が用意されている。登校時間はクラスによって異なり、午前中のみと、午後のみ二つに別れている。

私が実際に学校に行ってみて、大変だったことの一つは、短期間でたくさんの英語を読んで理解し、その上先生や生徒とコミュニケーションをとらなけ

ればならなかった。そのため、分からない単語やセンテンスがあれば調べメモをし、もし使う機会があるものがあれば実際に使うなどして工夫して勉強した。試験は学期ごとに一度 writing reading listening speaking の4つずつに分けられていて、自分がどの分野に弱いかを確かめることができる。

学校終わりや週末は学校が主催するイベントがたくさんあるので、それに参加したり、クラスメイトと買い物やランチ、観光スポットに行ったりした。その他には学校外で開催されている language exchange に参加し、現地の人を含め学校ではあまり交流できなかった国籍の人たちと交流を持ち、自分の英語力向上に努めた。

この留学を通して感じたところは何事もとにかくやってみることだ。一見単純に聞こえるがいざ実際にやってみるとなると難しいと思ってしまうだろう。実は学校の先生が授業中に一度僕も含め、日本人の生徒に対して怒ったことがあった。それは何故日本人は自分の考えや意見を言わないのかということだ。先生は間違ってもいいから自分の意見をきちんと伝える、話してみることが重要だと言った。それをしないから日本人は英語力が成長しないと言われた。僕はこれを聞いて日本人特有の謙虚さの悪い部分が出てしまっているなと感じた。そして次の授業から間違っているでもいいので積極的に発言するようにした。

僕がこれから留学する人に伝えたいことは完璧を求めすぎず、とにかくやってみることだ。たとえ英語が流暢に話せなくても伝えようとする姿勢がとても重要だ。最初は恥ずかしかったり、周りとは比べたりしてしまうかもしれませんが、間違いを恐れずに挑戦していくことが成長のカギだと思う。留学前の準備としては最低限の英語力

を持っておいたほうがいいと思う。あとは留学する前と後にどれだけ成長しているかを簡単に比較できるようにするために TOEIC などを受けておいたほうがいいと思う。